

---

---

# ランチョンセミナー

---

---



8月11日(土) 12:20~13:10 A会場(7F M-702 講義室)

座長：戸田 達史 東京大学大学院医学系研究科 神経内科学

## 筋疾患の診断ポイント ～治療薬のある筋疾患を見逃さない為に～

西野 一三

国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第一部

難病中の難病である筋ジストロフィーにも近年治療法が開発されつつあり、大きな期待が寄せられている。しかしながら現状では、その治療法開発は一部の筋ジストロフィーに限られ、さらには劇的な治療効果をもたらすものではない。一方で、一見臨床的に(あるいは筋病理学的にも)筋ジストロフィーのように見えるものの、実際には治療可能な他の筋疾患である場合がある。このような治療可能な筋疾患を見逃さず、速やかに診断を付けて治療を行うことは極めて重要であることは言を俟たない。従って筋ジストロフィーとの暫定臨床診断で確定診断を付けることなく漫然と経過観察することは厳に慎むべきである。本講演では、見逃されやすい治療可能な筋疾患について代表的な症例を提示し、確定診断を得るために施行すべき検査について議論したい。

8月11日(土) 12:20~13:10 B会場(8F M-800講義室)

座長：砂田 芳秀 川崎医科大学 神経内科学教室

### 筋炎の臨床

神田 隆

山口大学大学院医学系研究科 神経内科学講座

炎症性筋炎は“治せる”数少ない筋疾患のひとつである。かつては診断マーカーの乏しい疾患と認識されていたが、ここ数年の間に、皮膚筋炎を中心として炎症性筋炎での多数の自己抗体の存在とその臨床的意義が明らかになってきており、筋炎の臨床は新しい局面をむかえている。本日の講演では、筋炎を診断する際のポイント、それぞれの補助検査の意義、自己抗体の持つ意味を中心に、筋炎の臨床に関するtipsをお話ししたい。筋疾患としては例外的に、神経内科のみならず膠原病内科、皮膚科、小児科、呼吸器内科など多数の診療科が診る疾患であり、各科が独自のポリシーで診療しているのが現状であるが、それぞれの診療科の美点をしっかり取り入れて実臨床に生かすことが求められる。神経内科、膠原病内科、皮膚科の3科が合同で作成した治療ガイドラインについても触れる予定である。